

福祉社会デザイン研究科
(2017年度入学生まで)

研究指導概要

博士前期課程・修士課程

1. 各セメスタの指導内容

1 セメスタ

- ・論文題目に合わせ、基礎科目、専門科目の履修指導を受ける。
- ・研究計画を立案し、調査、実験等の研究方法論を修得する。

2 セメスタ

- ・自らの問題意識に基づいて研究関連分野の最近の研究活動の状況等のレビュー作成の指導を受ける。
- ・到達目標を踏まえた達成状況に応じて、研究計画の確認や見直しを行う。
- ・研究テーマに関連した研究課題や研究方法についてプレゼンテーションと討論を経験させ、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養う。

3 セメスタ

- ・確定した研究テーマに基づいて調査、文献研究を行い、研究方法の妥当性を検証しつつ、研究成果のとりまとめを行う。
- ・国内外の学会発表、論文投稿等、積極的に取り組めるよう指導を受ける。

4 セメスタ

- ・修士論文の骨子について、検討する。
- ・研究精度を高め、修士学位論文にまとめる。

2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

博士前期課程および修士課程2年生で、修士論文を提出する予定の者は、各専攻またはコースで定められた中間報告会および最終試験・修士論文発表会等で論文要旨をまとめて報告しなければならない。中間報告会および修士論文発表会等の開催時期や、報告の形式および配付資料の準備等、報告会の詳細は入学時ガイダンスまたは授業期間中に周知する。

博士前期課程在籍者は、学年等の如何を問わず報告を聞くことが可能なので、積極的に参加することが望ましい。

3. 特定課題研究論文等

福祉社会システム専攻、ヒューマンデザイン専攻、人間環境デザイン専攻では、修士論文の提出にかえて、特定課題研究論文の提出を認めている。特定課題研究論文とは、特定の課題について実践的に調査・研究した論文をいう。特定課題研究論文での提出を希望するものは、以下の要件に沿って提出すること。各専攻の要件の詳細は入学ガイダンス時に説明する。

- ・原則本大学院に2年以上の在学し、各専攻で定められた単位数を修得しなくてはならない。
 - 1) 福祉社会システム専攻は、36単位以上修得（見込）していること。
 - 2) ヒューマンデザイン専攻・人間環境デザイン専攻は、30単位以上修得（見込）していること。
- ・特定課題研究論文（12,000字以上のもの3本提出）の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。
- ・特定課題研究論文の選択は、原則として入学時に選択する。

特定課題研究論文の審査基準は、修士論文の基準に準ずる。

博士後期課程

1. 各セメスタの指導内容

1 セメスタ

- ・論文題目に合わせ、基礎科目、専門科目の履修指導を受ける。
- ・研究計画を立案し、調査、実験等の研究方法論を修得する。

2 セメスタ

- ・自らの問題意識に基づいて研究関連分野の最近の研究活動の状況等のレビュー作成の指導を受ける。
- ・到達目標を踏まえた達成状況に応じて、研究計画の確認や見直しを行う。
- ・研究テーマに関連した研究課題や研究方法についてプレゼンテーションと討論を経験し、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養う。

3 セメスタ

- ・確定した研究テーマに基づいて調査、文献研究を行い、研究方法の妥当性を検証する。
- ・国内外の学会発表、論文投稿等、積極的に取り組めるよう指導を受ける。

4 セメスタ

- ・収集した研究データ（量的、質的、文献資料）の分析を行い、研究結果を整理する。

5 セメスタ

- ・研究結果について、多角的な考察を展開し、博士論文の骨子について、検討する。
- ・研究精度を高め、博士学位論文にまとめる。

6 セメスタ

- ・論文についての精査を行って、推敲を繰り返した上で提出する。
- ・口述試験への準備を開始する。

2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

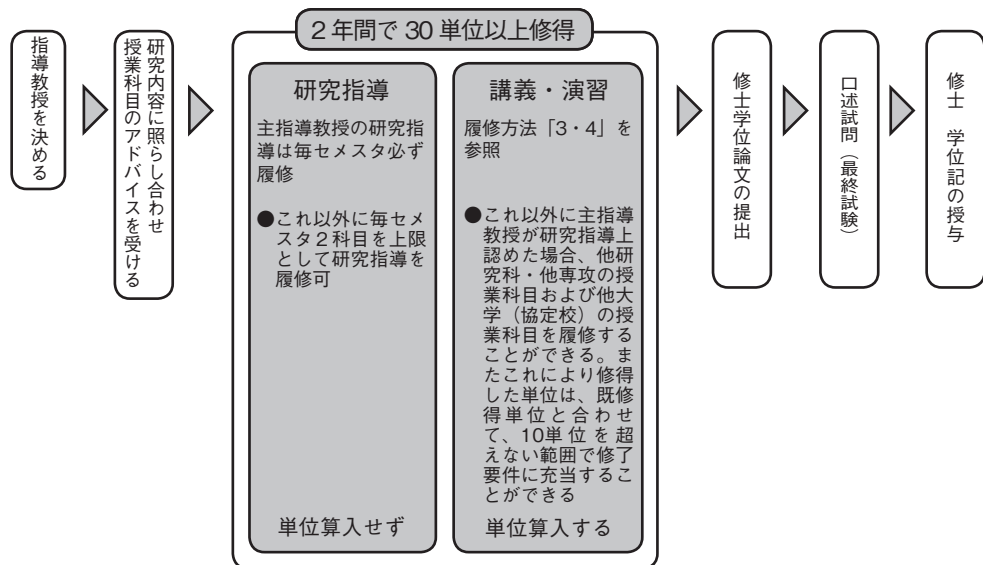
中間報告会での報告が博士論文の提出要件となっているため、在学者は全員、必ず現在の状況に即して各専攻またはコースで定められた中間報告会で報告すること。中間報告会の開催時期や、報告の形式および配付資料の準備等、報告会に関わる詳細は入学時ガイダンスまたは授業期間中に周知する。

審査終了時までに博士学位論文提出者による公聴会を開催する。

社会福祉学専攻 (2017年度入学生まで)

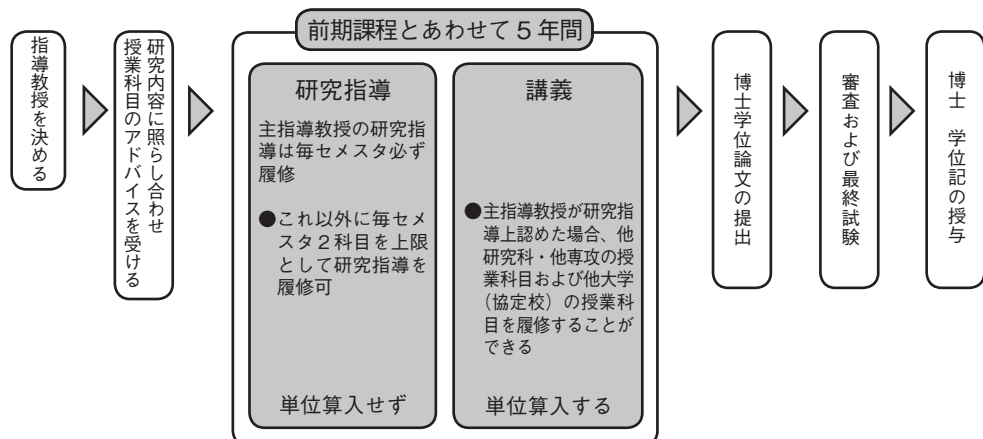
前期課程

履修の流れ



後期課程

履修の流れ



社会福祉学専攻

博士前期課程（2017年度入学生まで）

区分	授業科目・研究指導	サブタイトル	単位	組 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	職 名	担当教員	備 考
共通	社会福祉基礎特論Ⅰ	研 究 基 礎 論	2	SWS601	春	講 義	教授(兼任)	秋 元 美 世	全コースの必修科目
	社会福祉基礎特論Ⅱ	社会測定評価論	2	SWS602	秋	講 義	教授(兼任)	金 子 一	
	社会福祉基礎特論Ⅲ	研究方法論A(量的データの分析)	2	SWS603	春	講 義	非常勤講師(兼任)	小 澤 温	
	社会福祉基礎特論Ⅳ	研究方法論B(質的データの分析)	2	SWS604	春	講 義	教授(兼任)	志 村 健 一	
	社会福祉実務演習A	インターンシップ	2	CIV601	春	演 習	教授(兼任)	加 山 弾	
	社会福祉実務演習B	インターンシップ	2	CIV602	秋	演 習	教授(兼任)	加 山 弾	
社会福祉原理歴史コース	社会福祉原理歴史特論ⅠA	社会福祉原理論	2	SWS605		講 義			本年度休講
	社会福祉原理歴史特論ⅠB	社会福祉原理論	2	SWS606		講 義			本年度休講
	社会福祉原理歴史特論ⅡA	社会福祉思想史論	2	SWS607	春	講 義	教授(兼任)	金 子 光 一	社会福祉学研究指導ⅡAと共通
	社会福祉原理歴史特論ⅡB	社会福祉思想史論	2	SWS608	秋	講 義	教授(兼任)	金 子 光 一	社会福祉学研究指導ⅡBと共通
	社会福祉原理歴史特論ⅢA	社会福祉価値論・社会福祉人権論	2	SWS609	春	講 義	教授(兼任)	高 山 直 樹	
	社会福祉原理歴史特論ⅢB	社会福祉価値論・社会福祉人権論	2	SWS610	秋	講 義	教授(兼任)	高 山 直 樹	
	社会福祉原理歴史特論ⅣA	在留外国人の人権と福祉	2	SWS611	春	講 義	准教授(兼任)	荻 野 剛 史	
	社会福祉原理歴史特論ⅣB	在留外国人の人権と福祉	2	SWS612	秋	講 義	准教授(兼任)	荻 野 剛 史	
	社会福祉政策計画特論ⅠA	アドミニストレーション論	2	SWS613	春	講 義	教授(兼任)	伊 奈 川 秀 和	社会福祉学研究指導ⅢAと共通
	社会福祉政策計画特論ⅠB	アドミニストレーション論	2	SWS614	秋	講 義	教授(兼任)	伊 奈 川 秀 和	社会福祉学研究指導ⅢBと共通
社会福祉政策計画コース	社会福祉政策計画特論ⅡA	高齢者福祉政策論	2	SWS615	春	講 義	非常勤講師(兼任)	和 氣 純 子	隔年開講
	社会福祉政策計画特論ⅡB	高齢者福祉政策論	2	SWS616		講 義			本年度休講(隔年開講)
	社会福祉政策計画特論ⅢA	社会福祉法制・行政論	2	SWS617	春	講 義	教授(兼任)	秋 元 美 世	社会福祉学研究指導ⅤAと共通
	社会福祉政策計画特論ⅢB	社会福祉法制・行政論	2	SWS618	秋	講 義	教授(兼任)	秋 元 美 世	社会福祉学研究指導ⅤBと共通
	社会福祉政策計画特論ⅣA	貧 困 論	2	SWS619	秋	講 義	非常勤講師(兼任)	後 藤 玲 子	
	社会福祉政策計画特論ⅣB	貧 困 論	2	SWS620	秋	講 義	非常勤講師(兼任)	後 藤 玲 子	
	社会福祉政策計画特論ⅤA	高 齢 者 福 祉 論	2	SWS621	春	講 義	非常勤講師(兼任)	山 田 知 子	
	社会福祉政策計画特論ⅤB	高 齢 者 福 祉 論	2	SWS622	秋	講 義	非常勤講師(兼任)	山 田 知 子	
	社会福祉政策計画特論ⅥA	介護保障・ケアマネジメント	2	SWS623	春	講 義	教授(兼任)	藤 林 慶 子	
	社会福祉政策計画特論ⅥB	介護保障・ケアマネジメント	2	SWS624	秋	講 義	教授(兼任)	藤 林 慶 子	
	社会福祉政策計画特論ⅦA	障 害 者 福 祉 論	2	SWS625	春	講 義	教授(兼任)	志 村 健 一	
	社会福祉政策計画特論ⅦB	障 害 者 福 祉 論	2	SWS626	秋	講 義	教授(兼任)	志 村 健 一	
	社会福祉政策計画特論ⅧA	東アジアの社会保障制度の現状と課題	2	SWS627	春	講 義	非常勤講師(兼任)	朱 珉	隔年開講
	社会福祉政策計画特論ⅧB	日本と東アジアの社会保障制度の比較研究	2	SWS628		講 義			本年度休講(隔年開講)
	社会福祉政策計画特論ⅨA	地域活動計画論	2	SWS629	春	講 義	教授(兼任)	加 山 弾	社会福祉学研究指導ⅨAと共通
	社会福祉政策計画特論ⅨB	地域活動計画論	2	SWS630	秋	講 義	教授(兼任)	加 山 弾	社会福祉学研究指導ⅨBと共通
ソーシャルワークコース	ソーシャルワーク特論ⅠA	ジェネリック・ソーシャルワーク論	2	SWS631	春	講 義	非常勤講師	新 保 祐 光	
	ソーシャルワーク特論ⅠB	ジェネリック・ソーシャルワーク論	2	SWS632	秋	講 義	非常勤講師	新 保 祐 光	
	ソーシャルワーク特論ⅡA	ソーシャルワーク実践論	2	SWS633	春	講 義	講師(兼任)	佐 藤 亜 樹	
	ソーシャルワーク特論ⅡB	ソーシャルワーク実践論	2	SWS634	秋	講 義	講師(兼任)	佐 藤 亜 樹	
	ソーシャルワーク特論ⅢA	子ども家庭ソーシャルワーク論	2	SWS635	春	講 義	教授(兼任)	森 田 明 美	
	ソーシャルワーク特論ⅢB	子ども家庭ソーシャルワーク論	2	SWS636	秋	講 義	教授(兼任)	森 田 明 美	
	ソーシャルワーク特論ⅣA	ソーシャルワーク・リサーチ	2	SWS637		講 義			本年度休講
	ソーシャルワーク特論ⅣB	スーパービジョン論	2	SWS638		講 義			本年度休講

区分	授業科目・研究指導	サブタイトル	単位	組 ンバリング	学期	講義・ 演習の別	職 名	担当教員	備 考
研究指導	社会福祉学研究指導ⅠA	社会福祉原理論		REG601	春		教授(兼任)	稲 沢 公 一	
	社会福祉学研究指導ⅠB	社会福祉原理論		REG602	秋		教授(兼任)	稲 沢 公 一	
	社会福祉学研究指導ⅡA	社会福祉思想史論		REG603	春		教授(兼任)	金 子 光 一	
	社会福祉学研究指導ⅡB	社会福祉思想史論		REG604	秋		教授(兼任)	金 子 光 一	
	社会福祉学研究指導ⅢA	アドミニストレーション論		REG605	春		教授(兼任)	伊奈川 秀 和	
	社会福祉学研究指導ⅢB	アドミニストレーション論		REG606	秋		教授(兼任)	伊奈川 秀 和	
	社会福祉学研究指導ⅣA	高齢者福祉政策論		REG607					本年度休講
	社会福祉学研究指導ⅣB	高齢者福祉政策論		REG608					本年度休講
	社会福祉学研究指導ⅤA	社会福祉法制・行政論		REG609	春		教授(兼任)	秋 元 美 世	
	社会福祉学研究指導ⅤB	社会福祉法制・行政論		REG610	秋		教授(兼任)	秋 元 美 世	
	社会福祉学研究指導ⅥA	ジェネリック・ソーシャルワーク論		REG611	春		教授(兼任)	志 村 健 一	
	社会福祉学研究指導ⅥB	ジェネリック・ソーシャルワーク論		REG612	秋		教授(兼任)	志 村 健 一	
	社会福祉学研究指導ⅦA	ソーシャルワーク実践論		REG613					本年度休講
	社会福祉学研究指導ⅦB	ソーシャルワーク実践論		REG614					本年度休講
	社会福祉学研究指導ⅧA	子ども家庭ソーシャルワーク論		REG615	春		教授(兼任)	森 田 明 美	
	社会福祉学研究指導ⅧB	子ども家庭ソーシャルワーク論		REG616	秋		教授(兼任)	森 田 明 美	
	社会福祉学研究指導ⅨA	地域活動計画論		REG617	春		教授(兼任)	加 山 弾	
	社会福祉学研究指導ⅨB	地域活動計画論		REG618	秋		教授(兼任)	加 山 弾	

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
- 3) 共通科目「社会福祉基礎特論Ⅰ」を修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」はセメスタ毎に3科目（主指導教授1名（必須）・副指導教授2名（任意）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」は、同一科目を在学中2回（8単位）まで履修・単位修得することができ、かつ修得した単位は修了単位として認められる。
3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修・聴講は、成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができるが、この場合、修了単位として認められるのは、最初に取得した成績および単位のみとする。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程（2017年度入学生まで）

区分	授業科目・研究指導	サブタイトル	単位	組 ナバニング	学期	講義・ 演習の別	職 名	担当教員	備 考
社会福祉原理歴史コース	社会福祉原理歴史研究ⅠA	社会福祉原理研究	2	SWS701		講 義			本年度休講
	社会福祉原理歴史研究ⅠB	社会福祉原理研究	2	SWS702		講 義			本年度休講
	社会福祉原理歴史研究ⅡA	社会福祉思想史研究	2	SWS703	春	講 義	教授(兼任)	金 子 光 一	社会福祉学研究指導ⅡAと共通
	社会福祉原理歴史研究ⅡB	社会福祉思想史研究	2	SWS704	秋	講 義	教授(兼任)	金 子 光 一	社会福祉学研究指導ⅡBと共通
社会福祉政策計画コース	社会福祉政策計画研究ⅠA	保健福祉政策計画研究	2	SWS705	春	講 義	教授(兼任)	伊奈川 秀 和	社会福祉学研究指導ⅢAと共通
	社会福祉政策計画研究ⅠB	保健福祉政策計画研究	2	SWS706	秋	講 義	教授(兼任)	伊奈川 秀 和	社会福祉学研究指導ⅢBと共通
	社会福祉政策計画研究ⅡA	高齢者福祉政策研究	2	SWS707	秋	講 義	非常勤講師(兼任)	後 藤 玲 子	
	社会福祉政策計画研究ⅡB	高齢者福祉政策研究	2	SWS708	秋	講 義	非常勤講師(兼任)	後 藤 玲 子	新課程SPA研究VBと合併
	社会福祉政策計画研究ⅢA	社会福祉法制研究	2	SWS709	春	講 義	教授(兼任)	秋 元 美 世	社会福祉学研究指導VAと共通
	社会福祉政策計画研究ⅢB	社会福祉法制研究	2	SWS710	秋	講 義	教授(兼任)	秋 元 美 世	社会福祉学研究指導VBと共通
	社会福祉政策計画研究ⅣA	地域活動計画研究	2	SWS711	春	講 義	教授(兼任)	加 山 弾	社会福祉学研究指導ⅣAと共通
	社会福祉政策計画研究ⅣB	地域活動計画研究	2	SWS712	秋	講 義	教授(兼任)	加 山 弾	社会福祉学研究指導ⅣBと共通
	社会福祉政策計画研究ⅤA	高齢者ケアシステム研究	2	SWS713		講 義			本年度休講(隔年開講)
	社会福祉政策計画研究ⅤB	高齢者ケアシステム研究	2	SWS714	秋	講 義	非常勤講師(兼任)	和 氣 純 子	隔年開講
ソーシャルワークコース	ソーシャルワーク研究ⅠA	ジェネリック・ソーシャルワーク研究	2	SWS715	春	講 義	教授(兼任)	高 山 直 樹	
	ソーシャルワーク研究ⅠB	ジェネリック・ソーシャルワーク研究	2	SWS716	秋	講 義	教授(兼任)	高 山 直 樹	
	ソーシャルワーク研究ⅡA	ソーシャルワーク実践研究	2	SWS717	春	講 義	教授(兼任)	森 田 明 美	社会福祉学研究指導ⅦAと共通
	ソーシャルワーク研究ⅡB	ソーシャルワーク実践研究	2	SWS718	秋	講 義	教授(兼任)	森 田 明 美	社会福祉学研究指導ⅦBと共通
	ソーシャルワーク研究ⅢA	障がい者ソーシャルワーク研究	2	SWS719	春	講 義	教授(兼任)	志 村 健 一	社会福祉学研究指導ⅧAと共通
	ソーシャルワーク研究ⅢB	障がい者ソーシャルワーク研究	2	SWS720	秋	講 義	教授(兼任)	志 村 健 一	社会福祉学研究指導ⅦBと共通
研究指導	社会福祉学研究指導ⅠA	社会福祉原理研究		REG601	春		教授(兼任)	稲 沢 公 一	
	社会福祉学研究指導ⅠB	社会福祉原理研究		REG602	秋		教授(兼任)	稲 沢 公 一	
	社会福祉学研究指導ⅡA	社会福祉思想史研究		REG603	春		教授(兼任)	金 子 光 一	
	社会福祉学研究指導ⅡB	社会福祉思想史研究		REG604	秋		教授(兼任)	金 子 光 一	
	社会福祉学研究指導ⅢA	保健福祉政策計画研究		REG605	春		教授(兼任)	伊奈川 秀 和	
	社会福祉学研究指導ⅢB	保健福祉政策計画研究		REG606	秋		教授(兼任)	伊奈川 秀 和	
	社会福祉学研究指導ⅣA	地域活動計画研究		REG607	春		教授(兼任)	加 山 弾	
	社会福祉学研究指導ⅣB	地域活動計画研究		REG608	秋		教授(兼任)	加 山 弾	
	社会福祉学研究指導ⅤA	社会福祉法制研究		REG609	春		教授(兼任)	秋 元 美 世	
	社会福祉学研究指導ⅤB	社会福祉法制研究		REG610	秋		教授(兼任)	秋 元 美 世	
	社会福祉学研究指導ⅥA	ジェネリック・ソーシャルワーク研究		REG611					本年度休講
	社会福祉学研究指導ⅥB	ジェネリック・ソーシャルワーク研究		REG612					本年度休講
	社会福祉学研究指導ⅦA	ソーシャルワーク実践研究		REG613	春		教授(兼任)	森 田 明 美	
	社会福祉学研究指導ⅦB	ソーシャルワーク実践研究		REG614	秋		教授(兼任)	森 田 明 美	
	社会福祉学研究指導ⅧA	障がい者ソーシャルワーク研究		REG615	春		教授(兼任)	志 村 健 一	
	社会福祉学研究指導ⅧB	障がい者ソーシャルワーク研究		REG616	秋		教授(兼任)	志 村 健 一	

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

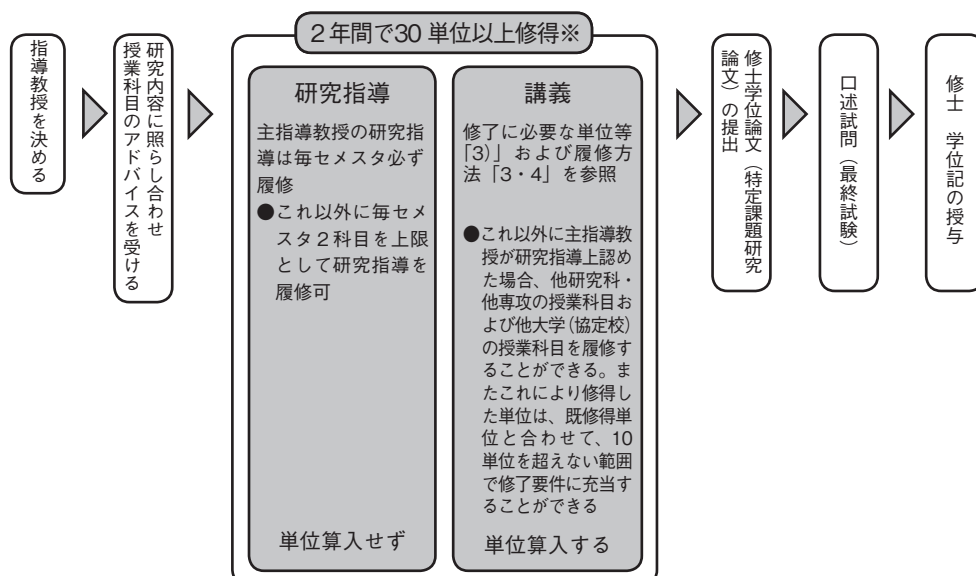
履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」はセメスタ毎に3科目（主指導教授1名（必須）・副指導教授2名（任意））を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

福祉社会システム専攻 (2017年度入学生まで)

修士課程

履修の流れ



特定課題研究論文を修士学位論文に代える場合は、2年間で36単位以上修得

福祉社会システム専攻

修士課程（2017年度入学生まで）

区分	授業科目	サブタイトル	単位	組 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	職 名	担当教員	備 考
共通	福祉社会システム基礎特論Ⅰ	研 究 基 礎 論	2	SWS601	春	講 義	教授(兼担) 教授(兼担) 教授(兼担) 准教授(兼担) 教授(兼担) 教授(兼担) 准教授(兼担) 教授(兼担)	須松 田 木 綿 子 松 本 誠 浩 小 澤 圭 直 桝 高 貞 慶 小 文 剛 桝 文 剛 藤 林 慶 子 村 尾 祐 美 子	必修科目
	福祉社会システム基礎特論Ⅱ	社会測定評価論	2	SWS602		講 義			本年度休講
	福祉社会システム基礎特論Ⅲ	研究方法論 A(量的データの分析)	2	SWS603	春	講 義	非常勤講師(兼担)	大 槻 茂 実	
	福祉社会システム基礎特論Ⅳ	研究方法論 B(質的データの分析)	2	SOC601	秋	講 義	教授(兼担)	文 貞 實	
	福祉社会システム基礎特論Ⅴ	専門職の価値と倫理	2	SOC602	春	講 義	准教授(兼担)	村 尾 祐 美 子	「福祉社会システム研究指導Ⅱ A」と共通
	福祉社会システム基礎特論Ⅵ	社 会 調 査 論	2	SWS604	春	講 義	非常勤講師(兼担)	小 山 弘 美	
	福祉社会システム基礎特論Ⅶ	現代社会と権利擁護	2	SWS605		講 義			本年度休講(隔年開講)
	福祉社会システム基礎特論Ⅷ	社会学的認知論	2	SOC603	春	講 義	教授(兼担)	紀 葉 子	「福祉社会システム研究指導Ⅲ A」と共通
	福祉社会システム基礎特論Ⅸ	社会学的認知論	2	SOC604	秋	講 義	教授(兼担)	紀 葉 子	「福祉社会システム研究指導Ⅲ B」と共通
地域社会システムコース	地域社会システム特論Ⅰ A	地域社会システム論	2	SOC605		講 義			本年度休講
	地域社会システム特論Ⅰ B	地域社会システム論	2	SOC606		講 義			本年度休講
	地域社会システム特論Ⅱ A	グローバル化と現代社会 A	2	SOC607	春	講 義	教授(兼担)	松 本 誠 一	「福祉社会システム研究指導Ⅳ A」と共通
	地域社会システム特論Ⅱ B	グローバル化と現代社会 B	2	SOC608	秋	講 義	教授(兼担)	松 本 誠 一	「福祉社会システム研究指導Ⅳ B」と共通
	地域社会システム特論Ⅲ A	地域と現代社会 A	2	SOC609	春	講 義	教授(兼担)	文 貞 實	「福祉社会システム研究指導Ⅴ A」と共通
	地域社会システム特論Ⅲ B	地域と現代社会 B	2	SOC610	秋	講 義	教授(兼担)	文 貞 實	「福祉社会システム研究指導Ⅴ B」と共通
	地域社会システム特論Ⅳ A	死生論、社会・文化変動論	2	SOC611	春	講 義	非常勤講師	井 上 治 代	
	地域社会システム特論Ⅳ B	死生論、社会・文化変動論	2	SOC612	秋	講 義	非常勤講師	井 上 治 代	
	地域社会システム特論Ⅴ	地 域 社 会 論	2	SOC613		講 義			本年度休講
	地域社会システム特論Ⅵ	現 代 社 会 論	2	SOC614	春	講 義	教授(兼担)	紀 葉 子	
	地域社会システム特論Ⅶ	現 代 家 族 論	2	SOC615		講 義			本年度休講
	地域社会システム特論Ⅷ	社会情報論(地域メディア論)	2	SOC616		講 義			本年度休講
	地域社会システム特論Ⅸ	女 性 労 働 論	2	SOC617	秋	講 義	准教授(兼担)	村 尾 祐 美 子	「福祉社会システム研究指導Ⅵ A」と共通
	地域社会システム特論Ⅹ	国際社会問題論	2	SOC618		講 義			本年度休講
	地域社会システム特論Ⅺ	国際社会福祉問題論	2	SOC619	秋	講 義	非常勤講師(兼担)	新 名 正 弥	
	地域社会システム特論Ⅻ	外 国 人 市 民 論	2	SOC620		講 義			本年度休講
	地域社会システム特論Ⅻ A	教育と社会階級・階層論	2	SOC621	春	講 義	教授(兼担)	小 澤 浩 明	「福祉社会システム研究指導Ⅶ A」と共通
	地域社会システム特論Ⅻ B	教育と社会階級・階層論	2	SOC622	秋	講 義	教授(兼担)	小 澤 浩 明	「福祉社会システム研究指導Ⅶ B」と共通
保健福祉システムコース	保健福祉システム特論Ⅰ A	多文化ソーシャルワーク論	2	SWS606	春	講 義	准教授(兼担)	荻 野 剛 史	「福祉社会システム研究指導Ⅷ A」と共通
	保健福祉システム特論Ⅰ B	多文化ソーシャルワーク論	2	SWS607	秋	講 義	准教授(兼担)	荻 野 剛 史	「福祉社会システム研究指導Ⅷ B」と共通
	保健福祉システム特論Ⅱ A	ケアマネジメント論	2	SWS608	春	講 義	教授(兼担)	藤 林 慶 子	「福祉社会システム研究指導Ⅸ A」と共通
	保健福祉システム特論Ⅱ B	スーパービジョン・実践評価論	2	SWS609	秋	講 義	教授(兼担)	藤 林 慶 子	「福祉社会システム研究指導Ⅸ B」と共通
	保健福祉システム特論Ⅲ	医療ソーシャルワーク論	2	SWS610	秋	講 義	非常勤講師(兼担)	若 林 浩 司	
	保健福祉システム特論Ⅳ	医 療 組 織 論	2	SWS611	春	講 義	非常勤講師	原 山 哲	
	保健福祉システム特論Ⅴ	貧 困 論	2	SWS612	秋	講 義	非常勤講師(兼担)	北 川 由 紀 彦	
	保健福祉システム特論Ⅵ	医療マネジメント論	2	SWS613		講 義			本年度休講(隔年開講)
	保健福祉システム特論Ⅶ	スーパービジョン論	2	SWS614		講 義			本年度休講
	保健福祉システム特論Ⅷ	医療の質管理論	2	SWS615		講 義			本年度休講
	保健福祉システム特論Ⅸ	福 祉 工 学	2	SWS616		講 義			本年度休講
	保健福祉システム特論Ⅹ	老年医学の高齢者論	2	SWS617	春	講 義	非常勤講師(兼担)	高 橋 龍 太 郎	集中講義
	保健福祉システム特論Ⅺ	老年医学の高齢者論	2	SWS618	秋	講 義	非常勤講師(兼担)	高 橋 龍 太 郎	集中講義
	保健福祉システム特論Ⅻ A	障害者ケアシステム論	2	SWS619	春	講 義	教授(兼担)	志 村 健 一	「福祉社会システム研究指導Ⅹ A」と共通
	保健福祉システム特論Ⅻ B	障害者ケアシステム論	2	SWS620	秋	講 義	教授(兼担)	志 村 健 一	「福祉社会システム研究指導Ⅹ B」と共通

区分	授業科目	サブタイトル	単位	組 ナンバリング	学期	講義・ 演習の別	職 名	担当教員	備 考
地域福祉システムコース	地域福祉システム特論ⅠA	高齢者ケアシステム論	2	SWS621	春	講 義	教授(兼任)	須 田 木綿子	「福祉社会システム研究指導ⅦA」と共通
	地域福祉システム特論ⅠB	高齢者ケアシステム論	2	SWS622	秋	講 義	教授(兼任)	須 田 木綿子	「福祉社会システム研究指導ⅦB」と共通
	地域福祉システム特論ⅡA	権 利 擁 護 論	2	SWS623	春	講 義	教授(兼任)	高 山 直 樹	「福祉社会システム研究指導ⅧA」と共通
	地域福祉システム特論ⅡB	権 利 擁 護 論	2	SWS624	秋	講 義	教授(兼任)	高 山 直 樹	「福祉社会システム研究指導ⅧB」と共通
	地域福祉システム特論ⅢA	地 域 福 祉 論	2	SWS625	春	講 義	教授(兼任)	山 本 美 香	「福祉社会システム研究指導ⅨⅠA」と共通
	地域福祉システム特論ⅢB	地 域 福 祉 論	2	SWS626	秋	講 義	教授(兼任)	山 本 美 香	「福祉社会システム研究指導ⅨⅠB」と共通
	地域福祉システム特論Ⅳ	ジェネリック・ソーシャルワーク論	2	SWS627	春	講 義	非常勤講師(兼任)	新 保 祐 光	
	地域福祉システム特論Ⅴ	子ども家庭ソーシャルワーク論	2	SWS628		講 義			本年度休講
	地域福祉システム特論Ⅵ	福祉アドミニストレーション論	2	SWS629	春	講 義	教授(兼任)	伊奈川 秀 和	
	地域福祉システム特論Ⅶ	非 営 利 組 織 論	2	SWS630	秋	講 義	教授(兼任)	須 田 木綿子	
	地域福祉システム特論Ⅷ	都 市 問 題 論	2	SWS631	春	講 義	非常勤講師(兼任)	皆 川 満寿美	
	地域福祉システム特論Ⅸ	精 神 保 健 論	2	SWS632	春	講 義	非常勤講師(兼任)	山 口 創 生	
研究指導	福祉社会システム研究指導ⅠA	地域社会システム論		REG601					本年度休講
	福祉社会システム研究指導ⅠB	地域社会システム論		REG602					本年度休講
	福祉社会システム研究指導ⅡA	国際地域社会論		REG603	春		教授(兼任)	松 本 誠 一	
	福祉社会システム研究指導ⅡB	国際地域社会論		REG604	秋		教授(兼任)	松 本 誠 一	
	福祉社会システム研究指導ⅢA	社会的公正とマイノリティ問題		REG605	春		教授(兼任)	文 貞 實	
	福祉社会システム研究指導ⅢB	社会的公正とマイノリティ問題		REG606	秋		教授(兼任)	文 貞 實	
	福祉社会システム研究指導ⅣA	死生論、社会・文化変動論		REG607					本年度休講
	福祉社会システム研究指導ⅣB	死生論、社会・文化変動論		REG608					本年度休講
	福祉社会システム研究指導ⅤA	多文化ソーシャルワーク論		REG609	春		准教授(兼任)	荻 野 剛 史	
	福祉社会システム研究指導ⅤB	多文化ソーシャルワーク論		REG610	秋		准教授(兼任)	荻 野 剛 史	
	福祉社会システム研究指導ⅥA	ケアマネジメント論		REG611	春		教授(兼任)	藤 林 慶 子	
	福祉社会システム研究指導ⅥB	ケアマネジメント論		REG612	秋		教授(兼任)	藤 林 慶 子	
	福祉社会システム研究指導ⅦA	高齢者ケアシステム論		REG613	春		教授(兼任)	須 田 木綿子	
	福祉社会システム研究指導ⅦB	高齢者ケアシステム論		REG614	秋		教授(兼任)	須 田 木綿子	
	福祉社会システム研究指導ⅧA	権 利 擁 護 論		REG615	春		教授(兼任)	高 山 直 樹	
	福祉社会システム研究指導ⅧB	権 利 擁 護 論		REG616	秋		教授(兼任)	高 山 直 樹	
	福祉社会システム研究指導ⅨA	障害者ケアシステム論		REG617	春		教授(兼任)	志 村 健 一	
	福祉社会システム研究指導ⅨB	障害者ケアシステム論		REG618	秋		教授(兼任)	志 村 健 一	
	福祉社会システム研究指導ⅩA	社会学的認知論		REG619	春		教授(兼任)	紀 葉 子	
	福祉社会システム研究指導ⅩB	社会学的認知論		REG620	秋		教授(兼任)	紀 葉 子	
	福祉社会システム研究指導ⅩⅠA	地 域 福 祉 論		REG621	春		教授(兼任)	山 本 美 香	
	福祉社会システム研究指導ⅩⅠB	地 域 福 祉 論		REG622	秋		教授(兼任)	山 本 美 香	
	福祉社会システム研究指導ⅩⅡA	社会学的労働論		REG623	春		准教授(兼任)	村 尾 祐美子	
	福祉社会システム研究指導ⅩⅡB	社会学的労働論		REG624	秋		准教授(兼任)	村 尾 祐美子	
	福祉社会システム研究指導ⅩⅢA	教育と社会階級・階層論		REG625	春		教授(兼任)	小 澤 浩 明	
	福祉社会システム研究指導ⅩⅢB	教育と社会階級・階層論		REG626	秋		教授(兼任)	小 澤 浩 明	

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。ただし、修士論文に代えて東洋大学大学院学則第12条の特定の課題についての研究成果により審査を受けようとする者は、修了要件となる科目で36単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
- 3) 共通科目「福祉社会システム基礎特論Ⅰ」を修得すること。

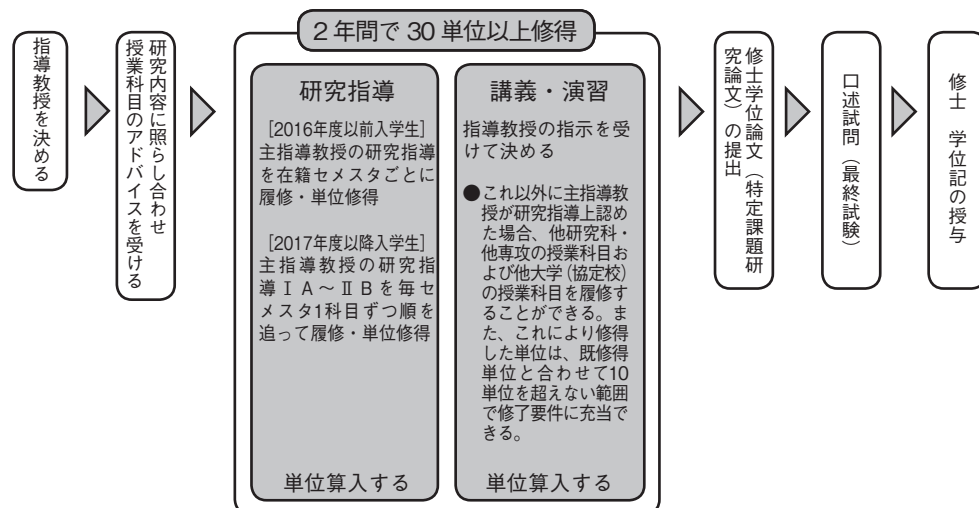
履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」はセメスタ毎に3科目（主指導教授1名（必須）・副指導教授2名（任意）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」は、同一科目を在学中2回（8単位）まで履修・単位修得することができ、かつ修得した単位は修了単位として認められる。
3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修・聴講は、成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。
なお、ここで対象とする「講義」、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」は、在学中何回でも履修・単位修得することができるが、この場合、修了単位として認められるのは、最初に取得した成績および単位のみとする。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
6. 福祉社会システム専攻においては、「特定課題研究論文」の審査をもって修士論文の審査に代えることができる（P.334参照）。「特定課題研究論文」の選択は、原則として入学時にのみ可能である。これを選択する場合は、予め題目届の提出により窓口に申し出ること（題目届の提出時期については、P.31参照）。
※3本のうち、1・2本目の提出時期は、主指導教授の指示を受け、適宜主・副指導教授に直接提出すること。
（所定の提出時期・様式は定めない。）
※3本目は、「修士学位論文」同様の提出時期・様式で、3本まとめたものを大学院教務課窓口に提出すること。

ヒューマンデザイン専攻 (2017年度入学生まで)

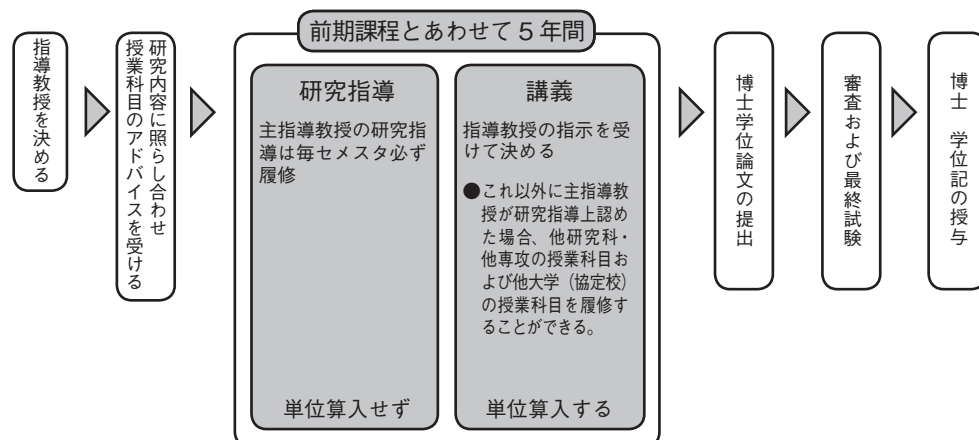
前期課程

履修の流れ



後期課程

履修の流れ



ヒューマンデザイン専攻

博士前期課程（2017年度入学生まで）

コース	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	職 名	担当教員	備 考
共通	—	(必修) ヒューマンデザイン基礎特論Ⅰ	ヒューマンデザイン研究入門	講 義	2	SWS601			本年度休講
	—	ヒューマンデザイン基礎特論Ⅱ	生活支援学基礎研究	講 義	2	SWS602			本年度休講(隔年開講)
	—	ヒューマンデザイン実践研究A		演 習	2	CIV601			本年度休講
	—	ヒューマンデザイン実践研究B		演 習	2	CIV602			本年度休講
	—	アジア福祉社会調査演習Ⅰ (1年次配当)		演 習	2	ARS601			本年度休講
	春・秋	アジア福祉社会調査演習Ⅱ (2年次配当)		演 習	2	ARS602		木内 明、八木裕子	集中講義
子ども支援学コース	春	子ども支援学特論ⅠA	児 童 福 祉 論	講 義	2	CHS601	教 授	森 田 明 美	
	秋	子ども支援学特論ⅠB	児 童 福 祉 論	講 義	2	CHS602	教 授	森 田 明 美	
	春	子ども支援学特論ⅡA	家 庭 支 援 論	講 義	2	CHS603	准 教 授	鈴 木 崇 之	
	秋	子ども支援学特論ⅡB	家 庭 支 援 論	講 義	2	CHS604	准 教 授	鈴 木 崇 之	
	春	子ども支援学特論ⅢA	発達神経学的子ども健康支援論	講 義	2	CHS605	教 授	杉 田 記代子	
	秋	子ども支援学特論ⅢB	発達神経学的子ども健康支援論	講 義	2	CHS606	教 授	杉 田 記代子	
	春	子ども支援学特論ⅣA	子ども心理発達支援論	講 義	2	CHS607	教 授	中 原 美 恵	
	秋	子ども支援学特論ⅣB	子ども心理発達支援論	講 義	2	CHS608	教 授	中 原 美 恵	
	—	子ども支援学特論ⅤA	保 育 学	講 義	2	CHS609			本年度休講
	—	子ども支援学特論ⅤB	保 育 学	講 義	2	CHS610			本年度休講
	—	子ども支援学特論ⅥA	子ども表現活動支援論	講 義	2	CHS611			本年度休講
	—	子ども支援学特論ⅥB	子ども表現活動支援論	講 義	2	CHS612			本年度休講
	—	子ども支援学特論ⅦA	児 童 養 護 論	講 義	2	CHS613			本年度休講
	—	子ども支援学特論ⅦB	児 童 養 護 論	講 義	2	CHS614			本年度休講
	春	子ども支援学特論Ⅷ	子ども支援計画論	講 義	2	CHS615	非常勤講師	小 野 道 子	集中講義
	—	子ども支援学特論Ⅸ	児童福祉施設運営論	講 義	2	CHS616			本年度休講
	—	子ども支援学特論ⅩA	子どもの権利論	講 義	2	CHS617			本年度休講
	—	子ども支援学特論ⅩB	子どもの権利論	講 義	2	CHS618			本年度休講
	春	子ども支援学特論ⅩⅠA	子どもの権利擁護システム論	講 義	2	CHS619	非常勤講師	荒 牧 重 人	
	秋	子ども支援学特論ⅩⅠB	子どもの権利擁護システム論	講 義	2	CHS620	非常勤講師	荒 牧 重 人	
	春	子ども支援学特論ⅩⅡA	幼 児 教 育 学	講 義	2	CHS621	准 教 授	高 橋 健 介	
	秋	子ども支援学特論ⅩⅡB	幼 児 教 育 学	講 義	2	CHS622	准 教 授	高 橋 健 介	
	春	子ども支援学特論ⅩⅢA	健 康 保 育 論	講 義	2	CHS623	教 授	嶋 崎 博 嗣	
	秋	子ども支援学特論ⅩⅢB	健 康 保 育 論	講 義	2	CHS624	教 授	嶋 崎 博 嗣	
	春	子ども支援学特論ⅩⅣA	児 童 文 学 論	講 義	2	CHS625	教 授	高 橋 直 美	
	秋	子ども支援学特論ⅩⅣB	児 童 文 学 論	講 義	2	CHS626	教 授	高 橋 直 美	
高齢者・障害者支援学コース	春	高齢者・障害者支援学特論ⅠA	障 害 者 福 祉 論	講 義	2	SWS603	教 授	是 枝 喜代治	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅠB	障 害 者 福 祉 論	講 義	2	SWS604	教 授	是 枝 喜代治	
	—	高齢者・障害者支援学特論ⅡA	精 神 保 健 論	講 義	2	SWS605			本年度休講
	—	高齢者・障害者支援学特論ⅡB	精 神 保 健 論	講 義	2	SWS606			本年度休講
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅢA	介 護 福 祉 論	講 義	2	SWS607	教 授	渡 辺 裕 美	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅢB	介 護 福 祉 論	講 義	2	SWS608	教 授	渡 辺 裕 美	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅣA	データ収集と分析基礎	講 義	2	SOC601	教 授	本 名 靖	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅣB	データ収集と分析基礎	講 義	2	SOC602	教 授	本 名 靖	

コース	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	職 名	担当教員	備 考
高齢者・障害者支援学コース	—	高齢者・障害者支援学特論ⅤA	レクリエーション支援論	講 義	2	AHS601			本年度休講
	—	高齢者・障害者支援学特論ⅤB	レクリエーション支援論	講 義	2	AHS602			本年度休講
	—	高齢者・障害者支援学特論Ⅵ	障害者支援制度・政策論	講 義	2	SWS610			本年度休講
	秋	高齢者・障害者支援学特論Ⅶ	障害者権利擁護論	講 義	2	SWS611	教授(兼任)	高 山 直 樹	
	春	高齢者・障害者支援学特論Ⅷ	死・ターミナルケアの社会学	講 義	2	SOC603	非常勤講師(兼任)	井 上 治 代	
	—	高齢者・障害者支援学特論Ⅸ	高齢者支援制度・政策論	講 義	2	SWS612			本年度休講
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅩA	保健医療福祉調査論	講 義	2	SWS613	准 教 授	的 場 智 子	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅩB	保健医療福祉調査論	講 義	2	SWS614	准 教 授	的 場 智 子	
	春	高齢者・障害者支援学特論ⅪA	医 療 福 祉 論	講 義	2	SWS615	教 授	吉 浦 輪	
	秋	高齢者・障害者支援学特論ⅪB	医 療 福 祉 論	講 義	2	SWS616	教 授	吉 浦 輪	
	—	高齢者・障害者支援学特論ⅫA	高齢者・障害者リハビリテーション原論	講 義	2	SWS617			本年度休講
	—	高齢者・障害者支援学特論ⅫB	高齢者・障害者リハビリテーション原論	講 義	2	SWS618			本年度休講
健康デザイン学コース	—	健康デザイン学特論ⅠA	ス ポ ー ツ 人 類 学	講 義	2	SPS601			本年度休講
	—	健康デザイン学特論ⅠB	ス ポ ー ツ 人 類 学	講 義	2	SPS602			本年度休講
	—	健康デザイン学特論ⅡA	ス ポ ー ツ 史	講 義	2	SPS603			本年度休講
	—	健康デザイン学特論ⅡB	ス ポ ー ツ 史	講 義	2	SPS604			本年度休講
	春	健康デザイン学特論ⅢA	ス ポ ー ツ 民 族 論	講 義	2	SPS605	准 教 授	木 内 明	
	秋	健康デザイン学特論ⅢB	ス ポ ー ツ 民 族 論	講 義	2	SPS606	准 教 授	木 内 明	
	—	健康デザイン学特論ⅣA	人 体 構 造 論	講 義	2	GEA601			本年度休講(隔年開講)
	—	健康デザイン学特論ⅣB	人 体 構 造 論	講 義	2	GEA602			本年度休講(隔年開講)
	—	健康デザイン学特論ⅤA	健 康 増 進 論	講 義	2	AHS603			本年度休講(隔年開講)
	—	健康デザイン学特論ⅤB	健 康 増 進 論	講 義	2	AHS604			本年度休講(隔年開講)
	—	健康デザイン学特論ⅥA	身 体 機 能 論	講 義	2	ENP601			本年度休講(隔年開講)
	—	健康デザイン学特論ⅥB	身 体 機 能 論	講 義	2	ENP602			本年度休講(隔年開講)
	—	健康デザイン学特論ⅦA	ヘルスプロモーション論	講 義	2	AHS605			本年度休講(隔年開講)
	—	健康デザイン学特論ⅦB	ヘルスプロモーション論	講 義	2	AHS606			本年度休講(隔年開講)
	—	健康デザイン学特論ⅧA	運 動 制 御 論	講 義	2	GPH603			本年度休講
	—	健康デザイン学特論ⅧB	運 動 制 御 論	講 義	2	GPH604			本年度休講
	—	健康デザイン学特論ⅨA	コンディショニング論	講 義	2	AHS607			本年度休講(隔年開講)
	—	健康デザイン学特論ⅨB	コンディショニング論	講 義	2	AHS608			本年度休講(隔年開講)
	春	健康デザイン学特論ⅩA	体 育 科 教 育 学	講 義	2	ESS601	准 教 授	平 野 智 之	
	秋	健康デザイン学特論ⅩB	体 育 科 教 育 学	講 義	2	ESS602	准 教 授	平 野 智 之	
	春	健康デザイン学特論ⅪA	学 校 保 健 論	講 義	2	EDU601	准 教 授	内 山 有 子	
	秋	健康デザイン学特論ⅪB	学 校 保 健 論	講 義	2	EDU602	准 教 授	内 山 有 子	
	春	健康デザイン学演習ⅠA	ヘルスプロモーション論演習	演 習	2	AHS601	教 授	齊 藤 恭 平	隔年開講(2019年度休講)
	秋	健康デザイン学演習ⅠB	ヘルスプロモーション論演習	演 習	2	AHS602	教 授	齊 藤 恭 平	隔年開講(2019年度休講)
	春	健康デザイン学演習ⅡA	健康増進論演習	演 習	2	AHS603	教 授	神 野 宏 司	隔年開講(2019年度休講)
	秋	健康デザイン学演習ⅡB	健康増進論演習	演 習	2	AHS604	教 授	神 野 宏 司	隔年開講(2019年度休講)
	春	健康デザイン学演習ⅢA	身体機能論演習	演 習	2	ENP601	教 授	鈴 木 哲 郎	隔年開講(2019年度休講)
	秋	健康デザイン学演習ⅢB	身体機能論演習	演 習	2	ENP602	教 授	鈴 木 哲 郎	隔年開講(2019年度休講)
	春	健康デザイン学演習ⅣA	人体構造論演習	演 習	2	GEA601	非常勤講師	寺 島 達 夫	
	秋	健康デザイン学演習ⅣB	人体構造論演習	演 習	2	GEA602	非常勤講師	寺 島 達 夫	
	春	健康デザイン学演習ⅤA	人体構造観察法演習	演 習	2	GEA603	教 授	大 迫 正 文	隔年開講(2019年度休講)
	秋	健康デザイン学演習ⅤB	人体構造観察法演習	演 習	2	GEA604	教 授	大 迫 正 文	隔年開講(2019年度休講)
	春	健康デザイン学演習ⅥA	コンディショニング演習	演 習	2	AHS605	准 教 授	岩 本 紗 由 美	隔年開講(2019年度休講)
	秋	健康デザイン学演習ⅥB	コンディショニング演習	演 習	2	AHS606	准 教 授	岩 本 紗 由 美	隔年開講(2019年度休講)

研究指導

コース	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	職 名	担当教員	備 考
子ども支援学コース	—	ヒューマンデザイン研究指導ⅠA			2	REG601		高橋（直）、中原、森田、杉田、嶋崎、鈴木（崇）	本年度休講
	—	ヒューマンデザイン研究指導ⅠB			2	REG602			本年度休講
	春・秋	ヒューマンデザイン研究指導ⅡA			2	REG603			3セメスタ在籍者
	春・秋	ヒューマンデザイン研究指導ⅡB			2	REG604			4セメスタ以上在籍者
高齢・障害支援学コース	—	ヒューマンデザイン研究指導ⅠA			2	REG601		是枝、本名、吉浦、渡辺、的場	本年度休講
	—	ヒューマンデザイン研究指導ⅠB			2	REG602			本年度休講
	春・秋	ヒューマンデザイン研究指導ⅡA			2	REG603			3セメスタ在籍者
	春・秋	ヒューマンデザイン研究指導ⅡB			2	REG604			4セメスタ以上在籍者
健康デザイン学コース	—	ヒューマンデザイン研究指導ⅠA			2	REG601		大迫、古川、神野、齊藤、鈴木（哲）、平野、木内、内山、岩本	本年度休講
	—	ヒューマンデザイン研究指導ⅠB			2	REG602			本年度休講
	春・秋	ヒューマンデザイン研究指導ⅡA			2	REG603			3セメスタ在籍者
	春・秋	ヒューマンデザイン研究指導ⅡB			2	REG604			4セメスタ以上在籍者

注：春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

1. 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
2. [2016年度以前入学生適用]
主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を、各自の在籍セメスタごとに履修・単位修得すること。
[2017年度以降入学生適用]
主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を、毎セメスタ1科目ずつ順を追って履修・単位修得すること。
3. 共通科目「ヒューマンデザイン基礎特論Ⅰ」を履修・単位修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名、副指導教授1名（特に主指導教授から指示があった場合は、2名）とし、主指導教授は、「ヒューマンデザイン研究指導ⅠA～ⅡB」を担当する教員の中から選ぶこと。
3. 同一科目を2回以上履修・単位修得することはできない。主指導教授の科目であっても1回のみ履修・単位修得できるものとする。ただし、長期履修学生は、延長したセメスタ（5セメスタ以上）において、主指導教授の「ヒューマンデザイン研究指導ⅡB」をその都度履修すること。なお、この場合であっても、同科目において修了要件に充当するのは2単位のみとする。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
5. 本専攻においては、特定の課題についての研究成果報告書の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。この「特定課題研究論文」の選択は、原則として入学時にのみ可能である。これを選択する場合は、予め窓口申し出ること。
※「特定課題研究論文」について
研究分野によっては、計画をもって「特定課題研究論文」とすることができる。
予め指導教授と相談のうえ窓口で申し出ること。
6. ヒューマンデザイン実践研究A・Bについて
・ヒューマンデザイン専攻では、院生が専門分野で社会実践（調査・実習・インターンシップを含む）を行うことを歓迎し推奨している。その社会実践が45時間（1.5時間×2回×15週）を超える場合、院生は実践先から証明を得て、その成果をレポートとして提出することができる。このレポートが一定の水準を満たせば、院生の主指導教授は2単位の演習科目を履修したものと認定し成績を評価する。
・実践研究Aは春学期、実践研究Bは秋学期に配置し、在学期間中に各1回履修・単位修得することができる。
・この演習科目は、ToyoNet-Gによる履修登録はできないので、主指導教授と相談の上、実践予定学期の履修登録期間中に、朝霞事務課窓口で配布する「ヒューマンデザイン実践研究履修届出用紙」に記入して提出すること。
7. アジア福祉社会調査演習Ⅰ・Ⅱについて
・この演習科目はアジア地域に実際に赴き、各国における福祉施設や社会福祉政策について調査や実習、インターンシップに従事した場合、その成果をレポートとして提出することができる。このレポートが一定の水準を満たせば、担当教員は2単位の演習科目を履修したものと認定し成績を評価する。
・演習Ⅰは1年次、Ⅱは2年次に配置し、原則、休暇中に現地にて実践した成果を次学期に評価し単位認定するものとし、在学期間中に各1回履修・単位修得することができる。
・この演習科目は、ToyoNet-Gによる履修登録はできないので、主指導教授と相談の上、各学期の履修登録期間中に、朝霞事務課窓口で配布する「アジア福祉社会調査演習履修届出用紙」に記入して提出すること。

博士後期課程（2017年度入学生まで）

コース	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	職 名	担当教員	備 考
子ども支援学コース	春	子ども支援学研究ⅠA	児 童 福 祉 論	講 義	2	CHS701	教 授	森 田 明 美	
	秋	子ども支援学研究ⅠB	児 童 福 祉 論	講 義	2	CHS702	教 授	森 田 明 美	
	春	子ども支援学研究ⅡA	脳科学に基づいた子ども健康発達支援論	講 義	2	CHS703	教 授	杉 田 記代子	
	秋	子ども支援学研究ⅡB	脳科学に基づいた子ども健康発達支援論	講 義	2	CHS704	教 授	杉 田 記代子	
	—	子ども支援学研究ⅢA	子 ど も の 権 利 論	講 義	2	CHS705			本年度休講
	—	子ども支援学研究ⅢB	子 ど も の 権 利 論	講 義	2	CHS706			本年度休講
	春	子ども支援学研究ⅣA	子どもの権利擁護システム論	講 義	2	CHS707	非常勤講師	荒 牧 重 人	
	秋	子ども支援学研究ⅣB	子どもの権利擁護システム論	講 義	2	CHS708	非常勤講師	荒 牧 重 人	
	—	子ども支援学研究ⅤA	幼 児 教 育 学	講 義	2	CHS709			本年度休講
	—	子ども支援学研究ⅤB	幼 児 教 育 学	講 義	2	CHS710			本年度休講
	—	子ども支援学研究ⅥA	子 ど も の 表 現 論	講 義	2	CHS711			本年度休講
	—	子ども支援学研究ⅥB	子 ど も の 表 現 論	講 義	2	CHS712			本年度休講
高齢者・障害者支援学コース	春	高齢者・障害者支援学研究ⅠA	障 害 者 福 祉 論	講 義	2	SWS701	教 授	是 枝 喜代治	
	秋	高齢者・障害者支援学研究ⅠB	障 害 者 福 祉 論	講 義	2	SWS702	教 授	是 枝 喜代治	
	春	高齢者・障害者支援学研究ⅡA	精 神 保 健 論	講 義	2	SWS703	客員教授	白 石 弘 巳	
	秋	高齢者・障害者支援学研究ⅡB	精 神 保 健 論	講 義	2	SWS704	客員教授	白 石 弘 巳	
	春	高齢者・障害者支援学研究ⅢA	介 護 福 祉 論	講 義	2	SWS705	教 授	渡 辺 裕 美	
	秋	高齢者・障害者支援学研究ⅢB	介 護 福 祉 論	講 義	2	SWS706	教 授	渡 辺 裕 美	
	—	高齢者・障害者支援学研究Ⅳ	障害者支援制度・政策論	講 義	2	SWS707			本年度休講
	—	高齢者・障害者支援学研究Ⅴ	高齢者支援制度・政策論	講 義	2	SWS708			本年度休講
	春	高齢者・障害者支援学研究ⅥA	医 療 福 祉 論	講 義	2	SWS709	教 授	吉 浦 輪	
	秋	高齢者・障害者支援学研究ⅥB	医 療 福 祉 論	講 義	2	SWS710	教 授	吉 浦 輪	

コース	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	職 名	担当教員	備 考
健康デザイン学コース	—	健康デザイン学研究ⅠA	スポーツ人類学	講義	2	SPS701			本年度休講
	—	健康デザイン学研究ⅠB	スポーツ人類学	講義	2	SPS702			本年度休講
	春	健康デザイン学研究ⅡA	人体構造論	講義	2	GEA701	教授	大迫正文	
	秋	健康デザイン学研究ⅡB	人体構造論	講義	2	GEA702	教授	大迫正文	
	春	健康デザイン学研究ⅢA	スポーツ史	講義	2	SPS703	客員教授	松尾順一	
	秋	健康デザイン学研究ⅢB	スポーツ史	講義	2	SPS704	客員教授	松尾順一	
	春	健康デザイン学研究ⅣA	健康増進論	講義	2	AHS701	教授	神野宏司	
	秋	健康デザイン学研究ⅣB	健康増進論	講義	2	AHS702	教授	神野宏司	
	春	健康デザイン学研究ⅤA	ヘルスプロモーション論	講義	2	AHS703	教授	齊藤恭平	
	秋	健康デザイン学研究ⅤB	ヘルスプロモーション論	講義	2	AHS704	教授	齊藤恭平	

研究指導

コース	学期	授業科目・研究指導	サブタイトル	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	職 名	担当教員	備 考
子ども支援学コース	春	ヒューマンデザイン研究指導				REG701		森田、杉田	
	秋	ヒューマンデザイン研究指導				REG702			
高齢者・障害者支援学コース	春	ヒューマンデザイン研究指導				REG701		吉浦、是枝、白石、渡辺	
	秋	ヒューマンデザイン研究指導				REG702			
健康デザイン学コース	春	ヒューマンデザイン研究指導				REG701		大迫、神野、齊藤、松尾	
	秋	ヒューマンデザイン研究指導				REG702			

修了に必要な単位等

1. 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
2. 主指導教授の講義科目は、同一科目であっても各年度毎セメスタ履修すること。

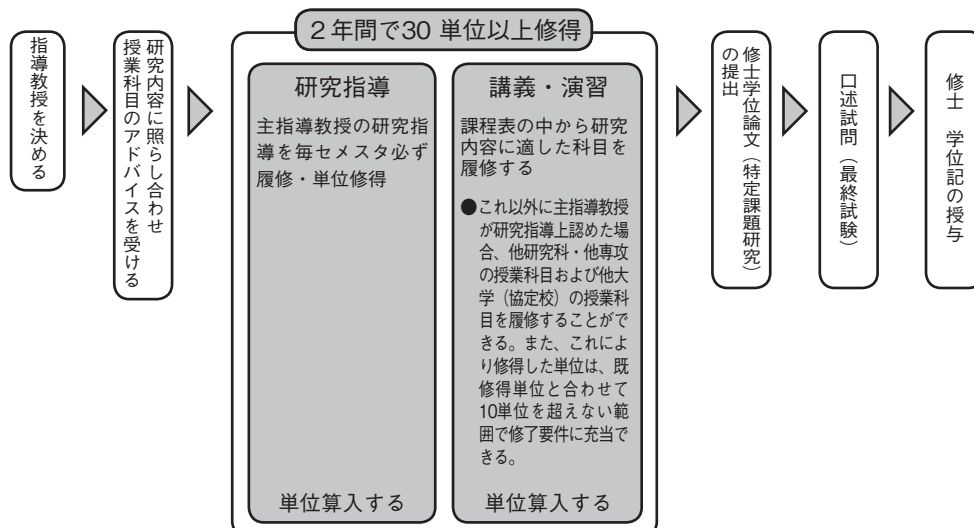
履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名、副指導教授1名（特に主指導教授から指示があった場合は、2名）とし、主指導教授および副指導教授は、「ヒューマンデザイン研究指導」を担当する教員の中から選ぶこと。
3. 主指導教授以外の講義は、主指導教授の指示を受けて決定すること。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

人間環境デザイン専攻 (2017年度入学生まで)

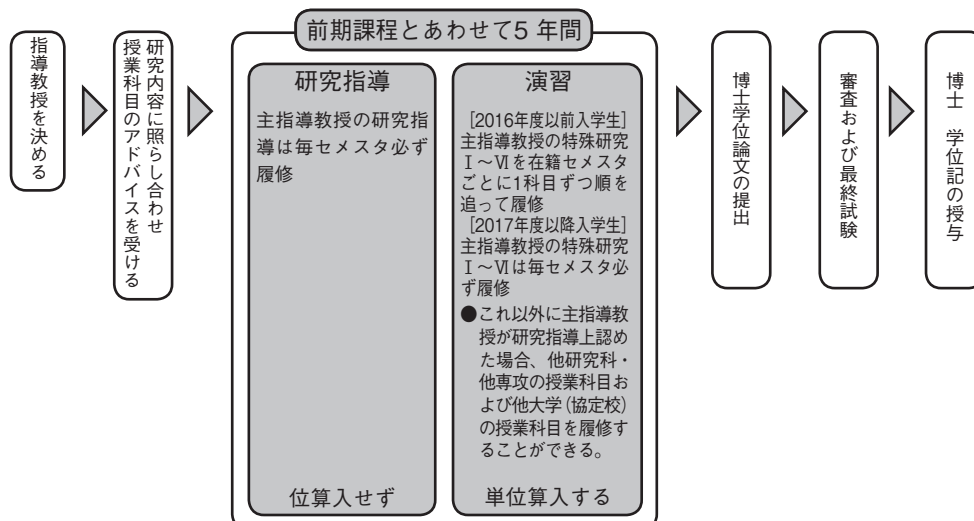
前期課程

履修の流れ



後期課程

履修の流れ



人間環境デザイン専攻

博士前期課程（2017年度入学生まで）

選択・必修の別	2018年度開講学期	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	職 名	担当教員	備 考
必修	—	人間環境デザイン基礎特論	講 義	2	DES601	1・2			本年度休講
選択	—	地 域 計 画 特 論	講 義	2	TPA601	1・2	教 授	菅 原 麻衣子	本年度休講（隔年開講）
	春	建 築 計 画 特 論	講 義	2	TPA602	1・2	教 授	高 橋 儀 平	
	秋	建 築 設 計 特 論	講 義	2	BSM601	1・2	教 授	内 田 祥 士	
	—	建 築 意 匠 特 論	講 義	2	AHD601	1・2	教 授	櫻 井 義 夫	本年度休講（隔年開講）
	秋	建 築 構 法 特 論	講 義	2	BSM602	1・2	准教授	名 取 発	
	—	生活支援工学特論	講 義	2	RSW601	1・2	准教授	嶺 也 守 寛	本年度休講（隔年開講）
	—	生活支援デザイン特論	講 義	2	RSW602	1・2	教 授	繁 成 剛	本年度休講（隔年開講）
	春	生活支援ロボット工学特論	講 義	2	RSW603	1・2	教 授	高 橋 良 至	
	—	住 居 計 画 特 論	講 義	2	CLD601	1・2	教 授	水 村 容 子	本年度休講（隔年開講）
	—	製 品 デ ザ イ ン 特 論	講 義	2	DES602	1・2	教 授	奥 村 和 正	本年度休講（隔年開講）
	春	アクセシブルデザイン特論	講 義	2	DES603	1・2	准教授	池 田 千登勢	
	春	ヒューマンインターフェイス特論	講 義	2	HII601	1・2	准教授	北 真 吾	
	春	インテリアデザイン特論	講 義	2	CLD602	1・2	准教授	柏 樹 良	
	—	生活空間計画特論	講 義	2	TPA603	1・2	教 授	川 内 美 彦	本年度休講（隔年開講）
	—	医 療 福 祉 建 築 特 論	講 義	2	AEN601	1・2	准教授	仲 綾 子	本年度休講（隔年開講）
	—	建築環境特論（一級建築士資格対応）	講 義	2	AEN602	1・2	非常勤講師	開 原 典 子	本年度休講（隔年開講）
	秋	コミュニケーション支援技術特論	講 義	2	RSW604	1・2	非常勤講師	巖 淵 守	集中講義
	—	認 知 心 理 学 特 論	講 義	2	CGS601	1・2	非常勤講師	小 林 吉 之	本年度休講（隔年開講）
	—	産学協同特別実習ⅠA	演 習	2	CIV603	1		研究指導担当教員	本年度休講
	—	産学協同特別実習ⅠB	演 習	2	CIV604	1		研究指導担当教員	本年度休講
	春	産学協同特別実習Ⅱ	演 習	2	CIV605	2		研究指導担当教員	集中講義
4単位選択必修	—	建築計画特別演習A	演 習	2	TPA601	1・2	右記教員	水村容子、菅原麻衣子、高橋儀平	本年度休講（隔年開講）
	—	建築計画特別演習B	演 習	2	TPA602	1・2			本年度休講（隔年開講）
	春	建築設計特別演習A	演 習	2	BSM601	1・2	右記教員	内田祥士、山本成一郎（非常勤講師）	
	春	建築設計特別演習B	演 習	2	BSM602	1・2		櫻井義夫、関佳彦（非常勤講師）	
	春	建築設計特別演習C	演 習	2	BSM603	1・2		名取 発、鈴木隆之（非常勤講師）	
	—	生活支援デザイン特別演習A	演 習	2	RSW601	1・2	右記教員	川内美彦、繁成剛	本年度休講（隔年開講）
	—	生活支援デザイン特別演習B	演 習	2	RSW602	1・2		高橋良至、嶺也守寛	本年度休講（隔年開講）
	春	製品デザイン特別演習A	演 習	2	DES601	1・2	右記教員	奥村和正、北真吾、柏樹 良、池田千登勢	
	春	製品デザイン特別演習B	演 習	2	DES602	1・2			
必修	—	人間環境デザイン学研究指導ⅠA	研究指導	2	REG605	1		高橋（良）、高橋（儀）、水村、奥村、内田、櫻井、川内、繁成、名取、嶺、仲、北、柏樹、池田	本年度休講
	—	人間環境デザイン学研究指導ⅠB	研究指導	2	REG606	1			本年度休講
	春・秋	人間環境デザイン学研究指導ⅡA	研究指導	2	REG607	2			3セメスタ在籍者
	春・秋	人間環境デザイン学研究指導ⅡB	研究指導	2	REG608	2			4セメスタ以上在籍者

注：春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

1. 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
2. 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修・単位修得すること。
3. 共通科目「人間環境デザイン基礎特論」を履修・単位修得すること。
4. 「特別演習」から2科目を選択して履修し、4単位修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名、副指導教授1名（特に主指導教授から指示があった場合は、2名）とし、主指導教授は、「人間環境デザイン学研究指導ⅠA～ⅡB」を担当する教員の中から選ぶこと。
3. 同一科目を2回以上履修・単位修得することはできない。ただし、長期履修学生は、延長したセメスタ（5セメスタ以上）において、主指導教授の「人間環境デザイン学研究指導ⅡB」をその都度履修すること。なお、この場合であっても、同科目において修了要件の単位に充当するのは2単位のみとする。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したもののみをみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
5. 「修士論文」または「特定課題研究」の作成にあたっては、主指導教授の指導を受けなければならない。
6. 特定課題研究のうち、修士設計を提出する場合の図書書式は下記のとおりとする。
 - ①提出はA4またはA3サイズとする。
 - ②内容
 - ・調査報告あるいは設計趣意書（約40,000字～60,000字程度）
 - ・図面もしくはそれに相当する表現：10枚～15枚程度（課題内容に合わせて書式は指示する）
 - ③模型等の提出は認めるが、修士設計図書一式で表現が完結していること。
7. 建築士試験の大学院における実務経験を認定してもらうためには、特定課題研究として「修士設計」の提出を求めることがあるので、指導教授の指示を受けること。

博士後期課程（2017年度入学生まで）

選択・必修の別	2018年度開講学期	授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	科目ナンバリング	配当年次	職名	担当教員	備考
必修	—	人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ	演習	2	REG703	1		高橋良至、高橋儀平、水村容子、奥村和正、内田祥士、櫻井義夫、繁成剛	本年度休講
	—	人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ	演習	2	REG704	1			本年度休講
	—	人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ	演習	2	REG705	2			本年度休講
	—	人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ	演習	2	REG706	2			本年度休講
	春・秋	人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ	演習	2	REG707	3			5セメスタ在籍者
	春・秋	人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ	演習	2	REG708	3			6セメスタ以上在籍者
必修	春	人間環境デザイン学研究指導	研究指導		REG710～REG715	1～3		高橋良至、高橋儀平、水村容子、奥村和正、内田祥士	各セメスタごとに履修
	秋	人間環境デザイン学研究指導	研究指導		REG710～REG715	1～3			各セメスタごとに履修

注：春・秋は、春または秋の意で、在籍セメスタの学期を指す。

修了に必要な単位等

1. 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
2. [2016年度以前入学者適用]
「人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」は、主指導教授の科目を、在籍セメスタごとに1科目ずつ順を追って履修すること。
- [2017年度以降入学者適用]
「人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」は、主指導教授の科目を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名、副指導教授1名（特に主指導教授から指示があった場合は、2名）とし、主指導教授および副指導教授は、「人間環境デザイン学研究指導」を担当する教員の中から選ぶこと。
3. 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

■一級建築士受験資格の実務年限認定

建築・環境デザインコースの大学院博士前期課程の学生は、インターンシップ関連科目の単位取得に応じて、一級建築士受験資格の実務経験年数認定（2年または1年）を希望することが出来る。希望する場合には、入学または進級時に、その意志を指導教員に申し出、具体的な履修説明・指導を受けること。

なお、インターンシップ科目及びインターンシップ関連科目の詳細については、指導教員の指導を受け、シラバスで確認すること。

□産学協同特別実習ⅠA・ⅠB・Ⅱについて

本実習は、人間環境デザイン専攻のインターンシップ科目である。ただし、建築・環境デザインコースの院生にとっては、一級建築士受験に際して、大学院在学期間の内一年間を実務経験年数として換算するためにも用いることが出来る科目として配置されている。本実習を実務経験年数として換算するために用いる場合には、あらかじめ、その旨指導教員に申し出て、必要な手続をとる必要がある。その上で、指導教員が適切と判断した一級建築士事務所に出向き、設計図書の作成等の建築設計補助業務を行う。したがって、直接の指導は出向先の有資格者（一級建築士）から受ける事になる。事前ガイダンスと事後報告計10時間とインターンシップ80時間の合計90時間で2単位とする。なお、建築設計補助業務とは下記の4つとする。

- ・実際の設計活動における設計補助作業
- ・実際の確認申請における申請業務の補助
- ・実際の工事監理における監理業務の補助
- ・設計競技或いはプロポーザル等の設計補助作業

本科目を受講した院生は単位の修得に際して、日報を提出し業務内容を指導教員に報告すること。

また、道具・機器デザイン及び製品・情報デザインの各コースにおいては、通常のインターンシップ科目として運用されるが、合計90時間で2単位であること、単位の修得に際して、日報を提出し業務内容を指導教員に報告する点は、建築・環境デザインコースの場合と同様である。

※ 産学協同特別実習ⅠA・ⅠBは1年次、Ⅱは2年次に配置する。

※ この科目は ToyoNet-G による履修登録はできないので、主指導教授と相談の上、実習が確定次第朝霞事務課窓口に申し出て、必要書類を提出すること。

□人間環境デザイン学研究指導ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBについて

本科目をインターンシップ科目とするのは、建築・環境デザインコースの院生が一級建築士受験資格の実務経験年数2年の認定を希望する場合のみとする。その場合、本学教員がインターンシップ科目として実施することとし、院生は、インターンシップ成果を含む特定課題研究を提出しなければならない。なお、一級建築士受験資格の実務経験年数2年の認定を希望する場合、インターンシップ科目を計14単位、インターンシップ関連科目を計16単位、合計30単位を取得することが必要となる。詳細は、指導教員の指導を受け、シラバスで確認すること。